

小学校低学年用のあらすじ

虹の橋町の丘に立っている木が、町に住んでいるいろんな子どもたちのことを紹介しています。赤色が大好きな男の子のかっくんは、服も靴も赤色で長い髪をなびかせて走り回っている。一緒に走り回っている青色が大好きな女の子のさっちゃん、小学校へ行くために青色のランドセルを買ってもらった。女の子で生まれたあっちゃん、自分は男の子だと思っている、七五三の時には着物でなく袴がはきたかった。好きになる人のタイプもそれぞれある。「男の子はこういうもの」「女の子はこういうもの」と決めつけない等ジェンダーの視点もまじえ、子どもが使いがちな言葉も入れ、性の多様性について考えます。

小学校中学年用のあらすじ

女の子のからだで生まれたあっちゃん、幼稚園の頃から自分は男の子だと思っている、園でも近所でも男の子とばかり遊んでいた。また、男の子のからだで生まれたいっちゃん、小学校3年生の頃から、「なんだか、自分は男の子じゃないみたい??」と思うようになった。こころとからだ合わない人や、「女でも男でもないよ。決められない」という人、また、えっちゃんのように「男の子か女の子かはっきりしない」ということもあること、好きになるひとのタイプもそれぞれであることや、家族と子育てのことなどを事例的に紹介しています。ジェンダーの視点もまじえ、子どもが使いがちな言葉（呼称）への私たちの思い、性の多様性について考えます。

小学校高学年から中学生用のあらすじ

多くは小学校中学年用と重なります。女の子のからだで生まれたあっちゃん、幼稚園の頃から自分は男の子だと思っている男の子とばかり遊んでいた。また、男の子のからだで生まれたいっちゃん、小学校3年生の頃から、「なんだか、自分は男の子じゃないみたい??」と思うようになった。こころとからだ合わない人や成長に伴うからだの変化、服装への思い、「女でも男でもない、決められない」人、えっちゃんのように「男の子か女の子かがはっきりしない」ということもあることなどを事例的に紹介します。また高学年以降の子どもには、特に性的指向について、うーさんのように好きになるタイプの人もそれぞれであること、愛する対象や結婚などへの思い、日本と世界の社会の状況などを紹介します。ジェンダーの視点もまじえ、家族と子育てのこと、子どもが使いがちな言葉（呼称）などを入れ、性の多様性について考えます。